

令和5年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(宮の原地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

令和5年度 第10回 まちづくり懇談会《宮の原地区》実施結果報告書
--

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《宮の原地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和6年1月23日（火）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 宮の原地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 50人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，中央市民活動センター所長，都市基盤保全センター所長，下水道管理課長，広報広聴課長

5 懇談内容

- (1) 地域代表あいさつ 宮の原地域まちづくり推進協議会 会長
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	防災対策について	河川課 下水道管理課 保健予防課
2	宅地造成に伴う交通対策について	技術監理課 都市計画課 下水道管理課

(4) 自由討議

No.	要 望	所管課
1	道路の冠水について	道路保全課 工事受付センター
2	魅力ある自治会づくりについて	みんなでまちづくり課
3	宮原球場通りの歩道の盛り上がりについて	都市基盤保全センター
4	高齢者の見守りににおける改善のお願い	保健福祉総務課
5	旧グランドホテル跡地について	都市計画課
6	みどりこども園付近の交通事情について	道路保全課 技術監理課

■地域代表意見 1（要旨）

テーマ	防災対策について
-----	----------

本地区内の西原旭陵自治会では、2019年の台風19号による田川の越水、藤七川の内水氾濫により、人的被害は幸いにもなかったものの、38世帯が床上浸水等の被害を受けた。

当時、ハザードマップでは、5つの班65世帯が、0.5m～3.0m未満の浸水想定区域及び家屋倒壊等氾濫想定区域内にあった。災害時指定避難所の宮の原小学校に向かうには、様々な困難が想定されるため、以前より、近隣の北関東総合警備保障に万が一の事態に備えて、本社屋を一時避難所としてお借りする取り決めができていた。そのため、当時は25世帯75名が北総警に避難し、深夜から早朝まで不安を抱えながら過ごす避難者への社を挙げた支援をいただき、本当に助かった。

その後、自治会独自に旧グランドホテルに、宿泊や車両等の避難所としてお借りできるよう御理解をいただいたが、残念ながら廃業となったため、近隣のリアン茶屋、かつ盛不動前店に車両等の一時避難所として協力を要請したところ、快く御理解いただき、現在は3事業所等に避難所を確保している。併せて、避難所での運営体制・組織づくりを進め、更に浸水想定区域内の全世帯の一時避難先調査を実施し、班の中や近隣同士で情報を共有する中で、お互いに共助の体制づくりを自治会としても進めて、非常時に備えてきている。

その間、市の尽力で藤七川と田川合流箇所へのフラップゲートの設置、増水時における排水作業の業者委託などが行われ、県では田川の堤防の補強強化工事、堆積土砂の掘削、上下2か所の調整池の設置、現在進められている50cmの更なる河床掘削工事が進行している。しかし、これらは今となっては5年前となるが、同等規模を想定したもので、昨今の異常気象では、再び田川が越水するような雨量をもたらす台風や集中豪雨が起こりうると思われるため、依然として、我々住民の不安は払拭されず、大きな防災上の課題となっている。

そこで住民のより安全・安心な生活に向けて、次の2点を提案する。

- ① まず1つ目として、藤七川は、釜川と田川の合流点から取水した農業用水として使用していた水路であるが、既にその機能は果たしていない。市は流域の勾配等から流量を調査して、平成通り以南は現状どおり、雨水処理を主たる用途として残すとの計画であるが、田川との合流点では、田川の越水と藤七川の内水氾濫でポンプでの排出は不可能である。

そのため、以前に要望しているが、再整備中の下河原水再生センターの計画を見直して余剰スペースができるようなので、そのスペースを活用して、藤七川の流量を一時貯めておく調整池としての機能を持たせる施設を新設するか、もしくは、付近の遊休農地を買い上げて、調整池とすることも有効な対策であると考えられるので、ぜひ、検討いただきたい。

また、今年8月の大雨の際に二度、市を通じてポンプの排水作業を業者に依頼していただいたが、契約業者が到着するまでに1時間程度、そこで排水作業を始めるまでに更に1時間を要した。こうした緊急時に迅速に対応できるかどうか考えると、一例として、岩手県の北上川に流れる大曲川という都市部を流れる小さな河川に、ボタン一つで作動できる常設の救急内水排水設備があり、つい最近も思川西部に与良川排水機場が作られたようだが、2019年の台風の後を受けて、現在様々なところで進められているようで

あるので、こうした常設の排水設備の設置を、一つの方法として検討いただきたい。

- ② 2つ目として、5年前の災害時には、保健所では、本市は上下水道完備のため、各被災者宅への消毒は不要であるとの担当者の考えを伺い、それで良いのかと思いつつも、自治会で消毒液を世帯数分まとめて保健所から受け取ってきて、各被災世帯に配布した。雨水に、マンホール等から溢れ出したトイレの汚水を含む生活排水が混入することは十分に考えられ、感染症等の懸念からも自助・共助では限りがあるので、ぜひ行政側の消毒の体制について改善をいただきたい。

回 答	所管課：①河川課，下水道管理課 ②保健予防課，下水道管理課
-----	----------------------------------

【市長】

宮の原地区の皆様には、治水・雨水対策に御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

本市においては、令和元年東日本台風の被害を踏まえ、浸水被害の早期軽減と治水の安全度を高めるため、令和3年度に「宇都宮市総合治水・雨水対策推進計画」を策定した。栃木県と連携を取りながら進めているところである。

藤七川周辺の浸水対策については、まず、大雨の際のポンプでの排水作業は、大雨時のパトロールを強化するとともに、藤七川の水位確認や事業者との連絡体制の強化を図り、迅速に対応できるように行っていく。さらに、田川からの逆流を防止するためのフラップゲートを設置したところであり、フラップゲートの機能が発揮できるよう、川の下を掘っていく浚渫等の適切な維持管理を引き続き行っていく。

また、藤七川付近の下水道については、雨水も併せて一つの管に集めて処理をする合流式である。大雨時には、下水道管内において下水が雨水により希釈され、河川に放流可能な水質となるものであり、処理能力を超えた一部の下水については、マンホール内のスクリーンによりごみを取り除きながら田川に放流できる仕組みとなっている。

このような中、想定以上の大雨に対応できるよう、現在、藤七川付近の内水氾濫対策として、スクリーンの改良に取り組んでいる。

このため、御提案の調整池の整備については、これらの事業効果を見極めながら検討を行っていく。

次に、浸水時の消毒については、浸水被害などによって汚物・汚水等の汚染が生じた場合、腸管出血性大腸菌や細菌性赤痢等の感染症がまん延する恐れがあるが、通常、河川水・雨水については、感染性のリスクが低いことから消毒不要と整理している。

令和元年台風19号による田川周辺地域の浸水については、主に雨水による河川氾濫に伴うものであったことから、床上浸水となった方で、清掃・乾燥に

より細菌やカビを除去した上で、さらに残った細菌等を消毒するための消毒薬を希望する場合には必要量を配布した。

一方で、し尿汲取の家庭が多い地域においては、便槽への浸水により糞便やトイレットペーパー等が道路上に散乱し、感染症発生リスクがあったことから、氾濫箇所の道路等への一斉消毒を、法律に基づいて実施した。

下水道の破損や逆流等により、局所的な汚水の流出を確認した場合は、市が洗浄・消毒を実施する。

床上浸水等の被害に遭われた際に、配布している消毒薬を受け取りに保健所までお越しになれない場合や、消毒などの衛生対策について不安な際には、保健所に御相談をいただきたい。

再発言	防災対策について（再）
------------	--------------------

先ほどの回答では、雨水管から溢れたものだけということだったが、上流からの、いわゆる上下水道が整備されていないような地域からの汚水が混濁した状況で下に流れてくるということは、十分に想定できるかと思う。そういったときには、雨水管・下水管で別で処理できるということであっても、上流の未整備地区からの汚水が混濁したものが流れてくることを考えると、やはり全市的に、道路や住宅の周りといったところへの消毒の体制は必要ではないのかなと考える。その辺りも含めて、今後さらに検討していただけたらと思う。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	宅地造成に伴う交通対策について
-----	-----------------

本地区内の西原旭陵自治会内では、旧グランドホテルの駐車場跡地にトヨタウッドユーホームが60区画、さらに、ホテルの敷地跡にグランディハウスによる再開発によって137区画、その他2か所の新たな宅地造成が進められ、200区画以上が販売中もしくは計画されている。既に10数世帯が入居しており、完売となれば、これまでの総世帯数172世帯の2倍以上になると見込まれている。

そうした状況にあつて、自治会内の道路事情は、JR日光線に南の方が阻まれており、旭陵通りから南進する市道963号線は、普通乗用車がやっと1台通れるかどうかの極めて狭い跨道橋しかない。旭陵通りや市内に向かう北進ルートは3つあるとはいえ、いずれも狭いため、今後の世帯数の増加に伴って、通行量がかなり増えることは必至であり、住民にとって安全・安心な生活に深刻な影響が出ることは、間違いなく大きな課題である。

そこで、次の点について、今後さらに関係機関等との連携を図りつつ、より良い方向性を模索していきたいと考えている。

まず1点目として、トヨタウッドユーホームの造成地から旭陵橋に通じる道路であるが、現状では朝夕に「みどり子ども園」への送迎等もあり大変混雑し、かつて、この橋の中央部は死亡事故もあった地点でもある。また、旭陵橋ではかなりの速度で通行する車両も多い現状であり、通行量の増加で今後さらに大きな事故も懸念されるため、信号機の設置について、開発業者や市とどのように連携して今後進めればよいのか、助言をいただきたい。不動前交差点から東には3か所の信号が設置されているが、さらなる事故防止にも繋がるものと考えられる。

次に2点目であるが、旧グランドホテル跡地に計画されているグランディハウスの分譲が始まることによって、多くの車両が利用すると見込まれている旭陵通りへのルートであるが、それも時間帯によっては、さらに混雑が想定される。近い将来を考慮して、信号機の時間間隔の調整などについても、開発業者や市とどのように今後連携して進めればよいのか、助言をいただきたい。

また、市道963号線であるが、道幅が狭く、分譲が進むことによって通行量の増加が懸念される。グランディハウスからの当初の説明では、そちらに繋がる道路を作る予定だということを聞いている。そうすると、道路の両側には従来からの住宅も並んでおり、拡張は困難であると思われるため、通学する子ども達や小さなお子さん達もいるので、安全確保の観点からも、乗用車同士がすれ違えるように遊休農地を買い上げし、待機所の設置を検討していただきたい。

次に3点目であるが、グランディハウスからの開発許可申請がまだ出されて

いないとのことであるが、申請が出されてからでは手遅れとなることも想定されるので、通行車両の問題をはじめとする諸問題に対し、事前に市と業者、地域住民との話し合いの機会を、ぜひ設定していただきたい。

次に4点目であるが、市内中心部への利便性を考えると、旭陵橋下から市職員会館方面への通行量がかなり増加すると見込まれる。そのため、これまでも要望しているが、下河原水再生センターの再整備にあわせて、事故防止の観点から、職員会館から南進するルートと亀井の水から金井田橋に至るルートとの交差点の見通しをさらに良くするため、水再生センター側の土地を一部削って交差点が直角に交わるよう、ぜひ計画を見直していただきたい。

回 答	所管課：技術監理課，都市計画課，下水道管理課
------------	-------------------------------

【市長】

信号機の設置については、交通管理者である栃木県警察の所管となっている。御要望等はお伝えすることができるので、ぜひ地域から御意見がまとまったら、お伝えいただきたい。

市道963号線の退避所等の安全対策であるが、当該市道は幅員が4メートル未満という道路になっている。通常、このような土地については、寄付をいただいて整備をしているところであるので、そうした地域の御協力をいただきながら、今後の状況を踏まえて検討していく。

都市計画法に基づく開発行為についてであるが、グランディハウスが購入されたということは確認しているが、現時点では、グランディハウスあるいは事業者からの正式な手続きが開始されていない。事業主体や事業計画等がまだ分かっていないので、法令上の指導はできないが、今後、開発行為を実施しようとする事業者によって正式な手続きが始まる場合には、市として法令に基づいて適正な指導を行うとともに、地域住民の皆様の御意見をしっかり聞いていただけるように伝えていく。

次に、下河原水再生センター南西部交差点の見通しについては、センターの再整備にあたっては、敷地内において施設を建築できる場所が限られていることから、コンクリートの塀からネットフェンスへ変更して、土地の一部を道路の隅切りに活用するなどして見通しを良くすることと、なるべく隅切りをして通りやすくするよう、交差点の見通し確保を進めていく。

■自由討議（要旨）

発言 1	道路の冠水について
------	-----------

宮原5丁目は、道路の幅が狭いためか、側溝がない箇所がある。

そのため、集中豪雨が発生すると、道路の水が低い土地の方に流れて浸水してしまう。ちょうど私の家があるのだが、低い所になっており冠水してしまう。

【実際の冠水の様子について、写真と動画で説明あり】

北から南に伸びている市道は、とても狭い道であるが、大勢の高校生が通学路として利用しており、地域住民だけではなく困っている方がいるのではと感じている。

こちらに側溝の設置、または大量の雨水を処理する他の対策があればお願いしたい。

回答	所管課：道路保全課，工事受付センター
----	--------------------

【市長】

御意見いただいた地域については、道幅が狭い箇所があり、個人が管理する私道もある。このため、道路の拡幅や側溝の設置はすぐにはできないが、他の地域でも行ってきた手法として、道路の透水性舗装がある。私道についてはその方の許可がないとできないが、許可があれば同じように舗装ができる。もう一つの手法としては、浸透柵の設置がある。私道についても承認をいただければ設置できるので、他の地域ではこのような対策を取っているところである。

また、御自宅の宅地の中に浸透柵を設置する対策もあり、その設置費用を市で補助している。宅地から道路に溢れる水は結構な量となるので、その対策にも繋がっている。

また、貯留タンクという方法もある。屋根等から出た水をここに貯めて、貯めた水は庭の散水などに使える。こちらも補助金の対象である。

宅地内の浸透柵の設置や、水を一時貯めて外に出さないという取組は、地域内の水の増水等には対応できることになるので、こういったものも併せて御利用いただきたい。

市としては、浸透柵の設置や透水性舗装を行うことができるので、ぜひ地域の皆様と相談しながら進めていただければ、市としても有難いところであるので、よろしくお願いします。

発言 2 魅力ある自治会づくりについて

自治会の加入率が、連合自治会などの資料を見ると、毎年1ポイント程度ずつ下落しており、現在は65%くらいのものである。私たちの町内では、世帯数は少ないがマンション数の関係もあり、自治会加入率はそこまでは下がっておらず、およそ8割台をキープしていると思う。しかし、これも地域によって様々であると思う。

このような中、コロナなどの影響もあり、地区や自治会での事業がなかなか開催しづらくなっている。また、財源となる自治会費であるが、会員数の大小が財政や地域の結束力にも影響していると思っている。おまけに、役員としていろいろと推進していく立場の人は、団体や自治会のリーダーを掛け持ちで担っている方が多い。地域によっては、担い手がおらず、輪番制や1年交代で行っているという話も聞いており、厳しい状態が続いていると思う。

地域では、高齢者の訪問・見守りなど、まちづくりなどの様々な活動をしているところであるが、地域の総合力を維持していくには、厳しい時代になってきたと思っている。

他の地区であるが、大学生のプロジェクトとして、地域の様々な課題ややり方を一緒になって研究・検討していただける事業が立ち上がったと聞いている。いろいろな知恵を集め、長期にわたって耐えうるような、何らかのやり方を考えたい。それと同時に、自治会費を払っていない人と払っている人が、同じようなメリットを受けるとするのは、会費を徴収している団体としてはなかなか難しい。

行政からすると、また違った立場になると思うので、難しいことは承知しているが、低くなっている自治会加入率に対する手立てなどを教えていただきながら、地区の連合会や市の連合自治会などと歩調を合わせながら、力をつけていきたいと思っている。

回答 所管課：みんなでまちづくり課

【市長】

御意見のとおりで、日本全国どこでも、自治会の加入率が低下をしている。

しかし、自治会や消防団はかけがえのない存在であり、これがなくなると、おそらくまちづくりというのは、前に進んでいかなくなってしまうと思っている。自力で生活ができるような東京や大阪などは良いかもしれないが、地域が助け合って生きていく、生活をしていくことが必要な地方においては、やはりなくてはならない存在である。

このため、宇都宮市では、自治会連合会と連携しながら、「自治会に入っていて良かったというメリットをどんどん作っていこう」ということで、その一つとして宮PASSを作った。自治会会員であれば、一世帯1枚必ずもらえることになっている。これを使うと、例えばレストランやスーパーマーケットなどで割引や特典が受けられる制度になっている。その施設は今144施設まで広

がっており、市としては、事業者の方にこの事業に加わっていただけるよう、これからも拡大に努めていく。

また、「宇都宮市まちづくり活動応援事業」として、自治会会員かどうかに関わらず、地域のイベントや清掃活動などに参加した活動者が、参加をするとポイントが貯まって、市有施設利用券や図書カード等と交換できる取組がある。こういったものにどんどん参加していただき、自治会会員の方には「参加してよかった。ポイントがもらえた。」というだけでなく、自治会に加入していない方に対しては、自治会会長をはじめ自治会会員の方から「ぜひ自治会に加入しないか」というような誘いもできると思うので、こういったものも活用していただきたいと思う。利用した自治会長の方からは、「若い世代が参加してくれた」などの声もいただいているところである。

このほか、魅力ある自治会づくりを推進するために「魅力ある自治会づくり支援事業補助金」というものがある。これは補助金を活用した自治会においては、自治会独自の活動を分かりやすくまとめて、自治会に加入していただけるようなパンフレットやチラシなどを作ったり、若者に向けたメッセージを作ったりするなど、そのようなことにこの補助金を活用し成果を上げているところもある。

さらに、来月2月3日には、ライトキューブ宇都宮において、市内各地区の自治会長をはじめ、若者や女性、働く世代、企業などが一堂に会し、「宇都宮の未来の自治会の在り方」について考える「宇都宮自治会シンポジウム」が開催される。自治会を活性化させる、加入率を上げていくといった、いろいろな議論がそこでなされると思うので、一緒に議論に加わっていただくことも良いし、その様子を見ていただくことも良いと思うので、ぜひ御参加していただきたい。

市としては、「魅力ある自治会づくり支援事業補助金」の拡充を行いながら、自治会の皆さんがいつまでも自治会で頑張る、支える側にいる、そのような会になっていけるようにしていきたい。また、先ほど申し上げたように、災害や何かあったときには自治会が頼りになるので、自分一人ではやはり生きてくことはできないので、しっかり市としても、先頭に立っていききたいと思うので、自治会会員の皆様には御苦勞をお掛けするが、これからも自治会を盛り上げていただきたいと思う。よろしく願います。

再質問	魅力ある自治会づくりについて
------------	-----------------------

私たち自治会会員の側が努力するものに対し、市が支援する事業が基本にあると思うが、宮PASSのような会員の人だけにメリットがあるようなものも何か考えながら、「ぜひ自治会に加入したい」となるような仕組みを、考えていただけると有難い。

回 答	所管課：みんなでまちづくり課
-----	----------------

【市長】

皆様からも、ぜひアイデアをいただきたい。自治会に加入していたら「得する」「自治会に入っていないともったいない、損してしまう」「自治会に入ろう」というような仕組みもあると思う。仮の話ではあるが、宇都宮市は家庭からのごみは有料化になっていないが、有料化になっているところでは、指定のゴミ袋を買って、それを有料としているわけである。自治会員には年間に何十枚か差し上げることで、「自治会に加入していなかったからもらえなかった、つまらないな」となるような、皆様からのアイデアがあつたらお願いしたい。ぜひそのようなことも、これからのまちづくりに必要になってくると思うので、インセンティブだと思って、ぜひそのようなことも考えていただきたいと思う。

発 言 3	宮原球場通りの歩道の盛り上がりについて
--------------	----------------------------

宮原4丁目と陽南1丁目の境を通っているＪＲ日光線と、宮原球場通りの間の歩道について、植木の根が歩道を押上げてボコボコになっているため、歩行者や自転車の通行に危険が生じている。

ＪＲ日光線が隣接していることを考えると、適正な歩道にするための舗装工事に取りかかることが交通安全上必要と考えるが、検討をお願いする。

回 答	所管課：都市基盤保全センター
------------	-----------------------

【市長】

街路樹は、木が大きくなればなるほど根も上がってくるので、いろいろなところで生じている現象である。

市役所の北側から入る道路でも、同じように根がせり出しており、歩きづらい、自転車を押しづらいといった状況となっている。

御指摘いただいた箇所についてであるが、木の伐採や、根の処理で済むなど、いろんな手法がある。いずれにしてもすぐに対応していきたいと思うので、現地に立ち会っていただき、当該箇所を教えていただきたい。市から後ほど連絡させていただく。

発 言 4	高齢者の見守りにおける改善のお願い
--------------	--------------------------

高齢者の見守りなどを市から自治会に依頼があるが、サポートが必要であると我々が感じた方への対応を、福祉課や保健所、地域包括支援センターに求めても、御本人の意思か同意がなければ、そういったものを利用できないというのが現状である。

以前、このようなことがあった。

自治会に加入している、身寄りがない一人暮らしの高齢者がいたのだが、数年前に、自宅で亡くなっていた。

私も、夜の電気がついているかなど見守るようにしていたが、残念な結果だった。

その方には生前、地域包括支援センターがあることを何度かお伝えはしたのだが、「まだ俺は平気だ」と言って、御本人は利用しなかった。

我々からすると、その方は持病をお持ちで危ないと思っていたので、勧めていたのだが、我々から地域包括支援センターに「利用させてください」と言うことはできない。

こういった部分を改善できれば、亡くなることはなかったかもしれないので、ぜひ改善をお願いしたい。

回 答	所管課：保健福祉総務課
------------	--------------------

【市長】

令和5年度から、一か所で全ての相談に対して適切に対応できるように、保健と福祉に係る相談を丸ごと受け付け、適切な支援に繋げる役割として、保健福祉拠点及び地域包括支援センターの計30箇所「保健と福祉のまるごと相談窓口エールU」を設置したところである。

今回御意見いただいたことについて、必ずしも本人ではなく、家族や民生委員をはじめとした地域の方からの御相談にも対応できるようにしたところですので、最寄りのエールUに御相談いただきたい。

発 言 5	旧グランドホテル跡地について
--------------	-----------------------

旧グランドホテル跡地であるが、現在は木一本もない状態である。あるのは、土埃や音だけである。近所にあった石塀なども壊されてなくなってしまう、どこからでも侵入できる状態であり、非常に物騒である。

そのような困った状態であることを、グランディハウスだけでなく市にも知ってもらいたい。ぜひ一度、市職員にも見に来てほしい。

回 答	所管課：都市計画課
------------	------------------

【市長】

先ほどの回答と同じように、グランディハウスには、地元から出ている御意見・御要望ということで、お話をさせていただきたいと思う。

発言 6 みどり子ども園付近の交通事情について

みどり子ども園への送迎において、特に夕方、保護者がお迎えのため住宅地の坂を降りてくる際、一時停止はしていると思うが、近所の方からは走行速度が速すぎると指摘された。保護者には、十分注意して走行するようにお願いしたところである。

また、歩道の設置について、新たにトヨタウッドユーホームの住宅地が作られるときに、今後の交通事情を考え歩道を作ってほしいとお願いしたのだが、そこまでの協力はしてもらえなかった。自転車やバギーで子どもを迎えに来る保護者もあり、通行するのに大変危険である。

私としては、近隣の方々にも迷惑をかけている状況であるので、一方通行にすることや、住宅地に入るところの道路に段差を付けることで減速ができるのではないかと思っている。

これからさらに住宅が増えると、すごいスピードで通り抜けていく車もあると思うので、そういったことを深刻に考えていただきたい。

また、現在、河川工事が行われているが、旭陵橋から下がってくるところに業者が車2台を止めており、旭陵通りのところで曲がることができないということがあった。

仕事の関係で止めているのかもしれないが、運転手もない状況で止められている。小さい子どもや一般の方々が通行する住宅地なので、「しばらくの間、車を止めます」という断りが事前にあったとしても、大変問題である。

当園には180名近いお子さんが通っている。1分でも早くお子さんを迎えに行きたいという保護者の気持ちもあるだろう。

今後はますます、交通対策を併せて考えていただく必要があると思っている。

回答 所管課：道路保全課、技術監理課

【市長】

先ほど回答したとおり、信号については県になるが、道路の一時停止を促す表示や注意喚起の表示については、市でできることなので、すぐに対応する。

段差（ハンプ）については、宇都宮ではなかなか見られないが、他県や海外では見られる。

一方通行や時間外の規制については、効果があると思うが、周りの住民の皆様の同意がないと、市としても動くことはできない。同意があれば動きたいと思うので、よろしく願います。